

No.72 contents

- 2 第102回二科展総評
- 3 〈絵画〉絵画部審査について 受賞作品
- 4 〈絵画〉受賞作品一制作の視点 受賞者一覧
- 5 〈絵画〉新会員紹介
- 6 〈絵画〉102回展会場から私の選ぶ作品寸評
- 8 〈彫刻〉総評 新会員紹介 受賞作品寸評
- 9 〈彫刻〉受賞作品一制作の視点 受賞作品寸評
- 11 ハリ賞・ローマ賞 研修報告
- 12 event memo(オープニングセレモニー・授賞式・懇親会・作品研究会
ギャラリートーク・ナイトミュージアム・コラボ展示)
- 14 被災地生徒作品特別展示 二科ショップ・チャリティー報告
- 第102回二科巡回展 日程 2018春季二科展 選抜出品予定者
- 15 〈写真部・デザイン部〉総評
- 16 出品規約変更のご注意 計報 トピックス 2018春季二科展 日程
事務局だより 編集後記



秋季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646
 E-mail：nika@nika.or.jp



102ND NIKA ART EXHIBITION 2017





第102回二科展の絵画部審査では、別表のように会友・一般合わせ四千点近い作品を4日間かけ全会員が審査にあたりました。絵画部では毎年、総会日の部会において審査に関する意見交換の場を設けています。より良い審査を目指し、審査の方向性や審査規約、手順等の改善点の合意を得たうえで審査日を迎えるべく、活発かつ建設的な意見が交わされ、審査に生かされています。今年特に検討された課題や実施された改善点を挙げてみます。

絵画部審査について — より良い審査を求めて —

山中宣明

① 会員・会友推挙と

授賞審査

会員・会友推挙と授賞は、優秀ではなく違う観点から審査することを徹底しました。法人の構成員となる会員・会友は定款上作品の評価だけでなく、会に貢献する人格や健康も問われます。全会員より選出された推挙候補について、評議員・支部長から支部での活動状況等について寄せられた意見を基に、理事会が検討・最終承認し決定しました。また特別賞に関しては、候補作の過去の受賞歴を検証し、並べて至近距離でも熟視したうえで、各賞の趣旨にふさわしい作品を全会員の投票により決定しました。本年度より会員推挙との重賞も可となりました。

② 2点入選選出について

2点入選は単に挙手数の多い作品順に選ぶのではなく、最も展示効果のある2点を検討し、慎重に選出しました。

③ 二次審査

二次審査において入選した作品は、次年度への奨励

第102回二科展総評

田中良



絵画部会員 審査室にて

複雑な空模様下に、第102回二科展が華々しく国立新美術館で開催された。今日の日本の美術団体展は、何れも出品者がやや減少の傾向にあるようだが、当会も例外ではなく、多少影響はあったが、質が向上しているのが目立った。

絵画、彫刻、デザイン、写真の四部とも、会員、会友の頑張り、陳列の妙を發揮されたことにより、会場の効果も良好で、一般観覧者の評価もよかった。連日奮闘された会員の皆様、事務局に深く感謝致します。

入選作をみると、会の方針である若手の育成への努力が少しづつ効果を上げてきた。佳作が陳列出来たことが何よりも証明できる。出品者の勉強の場として、初日開催の作品研究会、来場者に対する啓蒙、サービスタとしてのコラボ展示、金曜日のミニコンサート等々、会員が各々の分担で連日奮闘されている様に心からお礼を申し上げます。

又被災地支援として、熊本の高校生の大壁画制作へ、九州の理事・監事・支部長、関西から宮村理事、東京から塙事務局長が応援に行き、見事な風景の大作を完成させ

の観点から80号以下の作品を選出しました。

④ 受賞候補の公平性

推薦された人だけが賞候補になるのではなく、一次入選者もれなく賞候補の是非をはかります。

⑤ 上限6点について

103回より出品点数を6点までとします。出品制限が目的ではなく、密度の濃い丁寧な審査にするためです。

⑥ 将来性や特異な個性

公平な作品本位の審査を旨とし、挙手制度を貫いていますが、荒削りで技術不足であっても将来性ある作品や特異な魅力ある作品も見逃さないようにしています。

⑦ 大臣賞等の審査

審査5日目の大臣賞・都知事賞・会員賞審査は、理事と委嘱審査員2名により、作品討議の上、投票で決定しました。東京都職員が審査に立ち会い、終了後大変公平な審査方法である旨の評価をいただいたことを報告させていただきます。

最後に

完全無欠な審査方法はなく、常により良い審査を求め、会員全員で改善努力をしていきたいと思えます。



せ当展に陳列出来たことは、大きな喜びであり、観覧者にも感動を与えることが出来たと思う。

最近の傾向として、年々外国人の来場者が多くなって来た。今後は我々の仕事が一層国際的にも大いに広がりをもせてくれることを期待したい。

以上甚だ簡単に感想を述べたが、これは、あくまでも平和な世だから延々と続けられることであって、一度戦争が起きたら、総てが灰になってしまふのだから、私達は常に平和の鐘を鳴らし続けなければならない。今回の作品と、ご健康を祈ります。



絵画部会場 第1室



■上野の森美術館奨励賞
ガラスのりんごNo.2 F100 上田 有見子



■パリ賞 晩秋の朝 F100 清水 英子



■二科賞 forest scene 02 F100 山岡 明日香



■二科新人賞 追想 F80 上村 咲弥



■損保ジャパン日本興亜美術財団賞
Digital Cat I F100 日比野 恵美

受賞作品

受賞作品——制作の視点



■内閣総理大臣賞 時空の女神 F200 塙 珠世

内閣総理大臣賞

塙 珠世

時空とは、時間と空間が互いに関連し合う宇宙のことを言う。その広大無限に広がる宇宙に思いを馳せる。「時空の女神」により限られた生命が永遠となる時の心象風景。想いを込めて表現した。そのような時を与えられていることに感謝して。

東京都知事賞

田浦 哲也



■東京都知事賞 僕THINK 172×260.6 田浦 哲也

「僕THINK」は、「ボクシング」の言葉あそびで、2つの意味やイメージをこちゃ混ぜにしたダブルミーニング(ブルースの歌詞から学んだ)の絵画です。このことによって、意味が重層化したり、変質したり、場合によっては意味がなくなったりします。このような「誤用された意味」は、時として無意識の本質を暴き出します。

第102回二科展 受賞者

内閣総理大臣賞

塙 珠世(東京)

文部科学大臣賞

佐々木 至(神奈川)

東京都知事賞

田浦 哲也(福岡)

(絵画部)

二科賞

山岡 明日香(滋賀)

パリ賞

清水 英子(東京)

損保ジャパン日本興亜美術財団賞

日比野 恵美(愛知)

上野の森美術館奨励賞

上田 有見子(大阪)

会員賞

加藤 ひとみ(千葉)

小林 豊弘(神奈川)

茶谷 弥宏(石川)

山崎 美恵子(佐賀)

吉田 清光(神奈川)

会友賞

青木 洋子(福岡)

吾田 弘子(神奈川)

石川 由巳子(宮城)

今村 恵利子(熊本)

大槻 薫(茨城)

小川 幸男(福岡)

工藤 絵里子(埼玉)

二科新人賞

上村 咲弥(千葉)

新人奨励賞

朝比 智美(三重)

道 上 恵美(和歌山)

大岩 万里子(東京)

大島 信人(愛知)

太田 京子(群馬)

小田島 えい子(神奈川)

熊田 奈穂子(千葉)

酒井 とし子(埼玉)

嶋田 明日香(愛知)

中 智広(石川)

野 平 智広(鹿嶋)

山岡 明日香(滋賀)

山下 かじん(長崎)

(彫刻部)

二科賞

稲葉 朗(東京)

橋本 和明(和歌山)

彫刻の森美術館奨励賞

坂本 絢佳(山形)

豊田 晴彦(神奈川)

長谷川 大治郎(石川)

会友賞

藤田 明美(神奈川)

吉田 朋世(奈良)

井上 幸夫(群馬)

井上 幸夫(群馬)

カッソ ユキコ(東京)

与島 雪(富山)

西澤 桂(長野)

会友賞

川本 拓(神奈川)

山田 美智子(神奈川)

萩野 弘一(新潟)

カッソ ユキコ(東京)

浜田 修子(東京)

内閣総理大臣賞

塙 珠世(東京)

文部科学大臣賞

佐々木 至(神奈川)

東京都知事賞

田浦 哲也(福岡)

(絵画部)

二科賞

山岡 明日香(滋賀)

パリ賞

清水 英子(東京)

損保ジャパン日本興亜美術財団賞

日比野 恵美(愛知)

上野の森美術館奨励賞

上田 有見子(大阪)

会員賞

加藤 ひとみ(千葉)

小林 豊弘(神奈川)

茶谷 弥宏(石川)

山崎 美恵子(佐賀)

吉田 清光(神奈川)

会友賞

青木 洋子(福岡)

吾田 弘子(神奈川)

石川 由巳子(宮城)

今村 恵利子(熊本)

大槻 薫(茨城)

小川 幸男(福岡)

工藤 絵里子(埼玉)

二科新人賞

上村 咲弥(千葉)

新人奨励賞

朝比 智美(三重)

道 上 恵美(和歌山)

大岩 万里子(東京)

大島 信人(愛知)

太田 京子(群馬)

小田島 えい子(神奈川)

熊田 奈穂子(千葉)

酒井 とし子(埼玉)

嶋田 明日香(愛知)

中 智広(石川)

野 平 智広(鹿嶋)

山岡 明日香(滋賀)

山下 かじん(長崎)

二科賞

稲葉 朗(東京)

橋本 和明(和歌山)

彫刻の森美術館奨励賞

坂本 絢佳(山形)

豊田 晴彦(神奈川)

長谷川 大治郎(石川)

会友賞

藤田 明美(神奈川)

吉田 朋世(奈良)

井上 幸夫(群馬)

井上 幸夫(群馬)

カッソ ユキコ(東京)

与島 雪(富山)

西澤 桂(長野)

会友賞

川本 拓(神奈川)

山田 美智子(神奈川)

萩野 弘一(新潟)

カッソ ユキコ(東京)

浜田 修子(東京)

絵画部 新会員紹介



大岩 万里子

色遊びを繰り返して、思い描いた景色や気持ちを楽しみます。色と形が響きあう面白さを探求しています。

第79回 特選/第85回 会友推挙

第100回 会友賞/第102回 会員推挙



たいら—c



大島 信人

画面の中だけの対話ではなく、同時に壁面を超え空間も巻き込む「高い次元」での響きを重視した表現でありたい。

第80回 パリ賞/第85回 会友推挙

第94回 会友賞/第102回 会員推挙



景2



太田 京子

身近な生活の中に、今、掴める感覚を頼りに描いています。

第87回 特選/第93回 会友推挙

第95回 会友賞/第102回 会員推挙



風の記憶



小田島 えい子

二科50回展より出品し続け53年の月日が経ちました。少しずつ自由な世界に挑戦し続けたいと念じます。

第71回 特選/第73回 会友推挙

第79回 会友賞/第102回 会員推挙



流・ホタル



熊田 奈穂子

真を描くに当たり哲学、現況、心境を駆使して、制作は等身大の自分を映し出す鏡だと思っています。

第89回 上野の森美術館奨励賞

第92回 会友推挙/第99回 会友賞

2015 春季二科賞

第101回 損保ジャパン日本興亜美術財団賞



人・かたち(T)



酒井 とし子

ずっと、人物画です。具象から現在は平面の抽象画ですが色彩よりもし字空間の処理に苦勞する毎日です。

第87回 特選/第88回 会友推挙

第94回 会友賞/第102回 会員推挙



心の残響—生命III



嶋田 みどり

絵を描く時間は至福の時です。地球の大自然とつながっている球根の生命力その姿を追いつけていきます。

第88回 特選/第89回 会友推挙

第94回 会友賞/第102回 会員推挙



おひと(矢作ダム)3



徳永 スエ子

ダムで沈んだ里の輝かしい日々、屋敷の石垣、路傍の石仏、蔵、信心深く凍としたお人。鄙びた空事を描きたい。

第83回 特選/第93回 会友推挙

第95回 会友賞/第102回 会員推挙



季環—B



中 静江

絵の具を塗り重ねていくと人物の顔がみえてくる。そこから感じる想いを大切に描いていきたい。

第83回 安田火災美術財団奨励賞

第87回 会友推挙/第91回 会友賞

第102回 会員推挙



僕の姿を君の未来に



野平 智広

教室にいる動物と女性。互いに響き合うことで物語が始まる。そんな瞬間をイメージして制作しています。

第98回 特選/第99回 会友推挙

第100回 会友賞/第102回 会員推挙



forest scene 02



山岡 明日香

目に見える風景の要素を汲み、画面へと定着させる時に、感情に響くりアリティも描ければと考えています。

第94回 特選/第95回 会友推挙

第98回 損保ジャパン美術財団賞

第102回 二科賞・会員推挙



云



山下 かじん

工業用塗料の強さと輝きに、現代性と可能性を求め、ドロイングの生々しさと美意識のフォルム化を追求。

第94回 上野の森美術館奨励賞

第95回 損保ジャパン美術財団奨励賞・会友推挙/第96回 会友賞

第100回 二科賞/第102回 会員推挙

102回展会場から——私の選ぶ作品寸評



富田 雪 ヴェネツィアカーニバルにて F100



室永佳絵 地のことばNo.2 F100



中田 登 ART in ART 17.1 F100

夜のヴェネツィアの運河を仮装した人々が行き交う旅の思い出かと思いきや、よく見ればそこにいるのは人々ではなく動物達、空想の世界が広がっている。初出品ながら、心穏やかな温もりのある作品。この持ち味を大切にして、発想の面白さを追究して下さい。
(大淵万弥子)

富田 雪

一瞬ステンドグラスの中に身を置いたかのような強いインパクトを与えながらも敬虔な静けさを醸し出している。大らかなフォルムと撫でるような筆致の絵肌が伸びやかな空気を放って観る者の想像力に挑んでくるようだ。黄土と白の用い方が美しい。
(番匠美晴)

室永佳絵

ブルーで統一表現された空間は、もはやアトリエでは無く時が刻々と刻まれている異次元の空間を生み出しています。花の妖精がそこに潜み、見るものをその空間に引き込む不思議な力を感じとる事ができます。
(濱田進)

中田 登



宮井啓江 道と人 F100



増田 亨 覚醒 F80



橋本則子 街(1) F100

白を基調とした背景に、デフォルメした人物が繊細な線で描かれ、流れるようになりズムを作り出している。人物の表情に内奥を見て取れ、心惹かれた。今後更に画面構成を研究され、主題の魅力を一層引き出して下さい。
(大淵万弥子)

宮井啓江

ナイフを思い切りよく、筆も大胆に繊細に使いこなす。一見ガラクタのばらまきのように見えるが、そこかしこにイメージをわざとさせるフォルムがかくれていて、見あきない。白いネコが前足でなにか虫のようなものをつかまえているなど、細部も意外と心配りしている。
(齋藤賢司)

増田 亨

単なる平塗りではなく微妙な色の差の重ね塗りに、作者のもうすこしもうすこしという自分の求めているものに近づこうとする意志が感じられる。それはのびやかなタッチもおなじ。ユーモラスにも不気味にも見えるフォルムが緑色と紫色で描かれ、にんまりしてしまう。
(齋藤賢司)

橋本則子

102回展会場から——私の選ぶ作品寸評



寺田 秀子 歩む F100

ただ静かな、目立った表現を使わないこの絵に惹かれた。丁寧につくられた絵肌を流れる筆跡とデフォルメされた人体が、不思議な構図の上で観る者の心をくすぐるように調和する。抗って成るがままに歩む強い生が抑制された色彩のなかでじわりと湧きあがるようだ。
(番匠美晴)

寺田 秀子



村山 成夫 色にはほへど(転) F100

枯れていく花に美を感じる作者は、死を意識することと生とどう向き合っているか、生をどのように輝かせるかをテーマにしているように思われる。魅力あふれる繊細な表現力を持つ作者が、「どのように描くか」はもちろん、更に「何を描くのか」今後の展開に期待したい。
(田浦哲也)

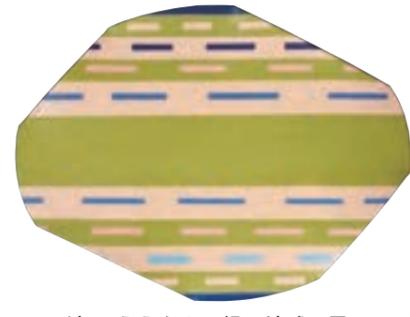
村山 成夫



野平 智広 僕の姿を君の未来に F100

共存しているはずの動物たちが、様々な大きさに変化してありふれた日常の中に、ありえない形で紛れ込んでいる。自然のバランスが壊れかけているのかもしれない。このような不安を未来へのメッセージとして、嫌味のない堅実な写実力でさりげなく見事に表現している。
(田浦哲也)

野平 智広



池田 うえもん 緑の地球の雲 P60

この物体は何なのか？疑問を投げ掛けてきます。目を凝らすと凹凸は地球に見えてきます。又隕石にも見えてきます。壁面から離れて部屋を舞う雲にも見えてきます。見るものの想像を駆り立てる不思議な形態に、新しい風を予感する事ができます。
(濱田進)

池田うえもん



奥山 嘉男 マテラII F100

陽光を浴びた山岳都市から生命を見出す事はできません。目を凝らすと階段を昇り降りする人々の足音が聞こえてきます。戸扉の向こう側から家族団欒の話し声が聞こえてきます。この街が脈々と生き続けている、深層表現に感嘆しました。
(濱田進)

奥山 嘉男



朝倉 由美 17生きるIV F100

カメラのレンズを引くように遠い視点で作品を見直した時、柔らかな色彩と気配としての人体が浮かび上がりハッとした。人体に込められた真摯な思いが心を打つ。舞い上がり、紡ぎ合う黒い曲線と強い赤の色彩が生きる証としてどう変化していくのか楽しみに思う。
(番匠美晴)

朝倉 由美



ローマ賞 Kanon—時を渡る 橋本 和明



文部科学大臣賞 ジャックの場合は 佐々木 至

ローマ賞 橋本和明

ひりひりと心の奥で消えぬ傷みを、人間の存在の強さと儚さを、そうした諸々の感覚を粘土でかたちの中に封じ込めようと制作して来た。愚直に繰り返して造り求めて行く。自らの思索の過程を明らかにする。僕に残された彫刻の方法「Kanon」の展開は、ここにしか無いように思う。

文部科学大臣賞 佐々木 至

数物の制作で、自己を無にと努めた事が作用したのか、指の数センチ先で作品が出来てしまった気がする。自信の無い自分の背中を、唯一押ししてくれる疲労感さえいつもと異なり、初めての感覚である。迷路の中に居た様な、そんな奇妙な夏が終わった。

受賞作品
—制作の視点

彫刻部 総評

島田 紘一 氏



彫刻部 集合写真

第102回二科展が9月6日から18日まで、国立新美術館において開催され、今年は9月に入ってから

開催だったので、例年よりも少し秋を感じさせるスタートとなりました。彫刻部の展示室は、評判が良かった前年度と同じようにパネルで仕切りました。作品展示は、同じ材質の作品や受賞作品などが一か所に集まらない様に配置し、毎年同

じ作家の作品が、同じ場所に固定されマンネリ化しないように心掛けました。彫刻展示室を入場口から作品を鑑賞していきますと、第1室では空間の広がりを感じる中、若くて大いに張り切った作品が目にとまります。さらに2室、3室、4室へと進むと、二科色とも言うのであろうか穏やかな空気の中、木彫、金属、ブロンズ、石膏など様々な材質で、異なる作風の作品群が展示されています。そして、5室まで進むと広いスペースに大作がゆったりと落ち着いた空間を構成しています。

野外展示場へと向かう途中にある休憩室は、今年で3回目を迎えたコラボ展示スペースになっています。絵画、彫刻、デザイン、写真の4部門の会員が参加の企画で、今回はネコ、イヌ、花をテーマにしています。今年から新しい企画としてミニ個展を4か所に設置するなど、毎年展示に工夫を加えています。その結果、コラボ展示は来場者に喜ばれ二科展の新たな魅力となりつつあります。さて、野外展示場に出ますとやはり石彫がほとんど

を占めています。夜の照明で照らし出される作品、雨にぬれ、色が濃くなった石彫、太陽の下の熱い手触り等、野外には室内とは違う魅力が満ちています。振り返れば、重厚感はあるが少々狭かった旧東京都美術館から、開放的な、明るく広いスペースの国立新美術館に移ってきて、いかににより良い会場展示が出来るか全員で知恵を絞って、試行を繰り返して、今の展示構成にたどり着きました。他団体からも、良い展示会場だとお褒めの言葉も聞えて来る様になったのは、二科会として喜ばしい事です。

受賞作品寸評



二科賞 TRICK 稲葉 朗

彫刻部で、二科賞を出すのは久しぶりのことである。

生命とは個体だと思っていた。何か一つの形であらわそうと思っていた。作り続けていくうちに生命とは流れなんだと感じた。その上に浮かぶものが植物であり動物であり人なんだと。これからは魂をこめて納得のいく制作をしたいと思えます。



川本 拓

彫刻部 新会員紹介



山田 美智子

今年度の二科を代表する重さが選考に慎重さを与える。

作品に向かい合うと一瞬重量バランスに違和感を覚えるだろう、彼の作風のトリックだ。

左足をスライス状にわずらせ重さを消してゆく、形の動きの中に時間を入れている。若い世代の新しい取り組みに大いに期待したい。

(島田 紘一 氏)



彫刻の森美術館奨励賞 口から出たもの 坂本 絢佳



会員賞 鳥のうたと空間 長谷川 大治郎



会員賞 Hush-A-Bye(ハッシュアバイ) 豊田 晴彦

会員賞 豊田晴彦

今回はデッサン・マケツトに時間をかけ、本当に自分は何を表現したいのか、熟成するのを待ちました。本制作ではお決まりの工程に拘わらず思わぬ発見を大事にしました。評価された事を喜びながらも技術に溺れず素材に媚びず制作し続けたいと思います。

会員賞 長谷川大治郎

時の流れは記憶の中に在る時と違って、肉体は滅び、精神だけが残る、今、確かに、若い頃に軽く想っていた事柄が現実となった。一歩づつ、未来に向かって、想いを新たに、制作し続けたいと思う。

受賞作品寸評

彫刻の森美術館奨励賞

坂本 絢佳

作品「口から出たもの」は実際には目には見えない言葉や声、空中にさまよう様を現実の形体として表現している。しかも不確かな対象には不向きな感じのする硬質な花崗岩を極限の細さまで絞り込んで、自らが思い描く形に変換できたことに確かな造形力を感じる。

(前田 耕成)



会友賞 ベトザタの池 藤田 明美



会友賞 ロバ 吉田 朋世



特選 娘 井上 幸夫

会友賞 藤田明美
流木を、紡ぐ様に繋いだ半身三体の作品。上体の臍気なこと、動きや関係性に想像がふくらむ。繊細さと大胆な表現の攻防も外連味を感じさせない。異種素材の表わす物は、癒しか、絶望か、畏敬への標榜か。模索を楽しんでほしい。
(佐々木 至)

会友賞 吉田朋世
展示会場中央壁側に「ちよん」と清まして台座に乗っかるイヌの様な動物が見える。側に近寄りよく見ると、紛れもなくロバなのである。滑稽かもしれない、しかも饒舌なのかもしれない。そして端正でもある。否、その姿からは遠く離れた『女神』なんだろう。妙な事を言っただけだが、その凛とした強固なる作品の姿が述べさせたのだ。(小田信夫)

特選 井上幸夫
110cm程の小作品であるが、丁寧な彫り進め、見応えのある仕上がりになっている。木地と着色された部分が程良いバランスをとっており全体の統一感を感じさせるのだが台座にも意識が注がれるべき。対象に対する愛情と完成度の高さから静かな気品が感じられる。
(嶋崎達哉)



特選 inside カツノ ユキコ



特選 シェア 与島 雪



新人奨励賞 杜 西澤 桂

特選 カツノユキコ
さまざまな大きさの方形の樺材を集積し削り込むという独特な手法で制作された作品は、数本の足でその量塊を地上から浮かび上がらせる。削り込まれた曲面の形と集積のまま残された形とのバランスが課題か。作者独自の造型作法を遵守しつつ、新たな展開に期待する。
(橋本和明)

特選 与島雪
書物の世界に静かに沈潜する一人と一匹。わずかに重ねた親指に、心の起伏が現れている。素材に向う素直な気持ちもたらず暖かさと同時にユーモアを兼ね備えたところが作者の持ち味なのだろう。まっすぐな造形への探求が、その魅力を増強するものにする。
(二ノ宮裕子)

新人奨励賞 西澤 桂
「杜」と題された立像は、静かで、豊かな時間を感じさせる誠実な作品です。一瞬、フと足元を見る動作がポーズの源です。小さな破綻も幾つかあるが、若い作者は、旺盛な吸収力を発揮して、この先自らの足元を確かめつつ、多くの発見を重ねていくだろう。
(鷲崎直子)

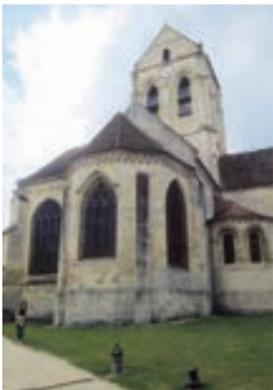
パリ賞 研修報告

オーベル・シユル・オワーズを訪ねて

石川由巳子 (第101回展 パリ賞)

2017年8月5日、私の大好きな画家ゴッホが、亡くなるまでの70日間を過ごした小さな村、オーベル・シユル・オワーズを訪ねてきました。パリから北西に30km、セーヌ川の支流オワーズ川沿いにあるこの村には、雄大な空、どこまでも続く地平線、そしてゆったりとした田園風景が広がっていました。ゴッホを惹きつけてやまない魅力と平穏さがそのまま残っている村でした。

ガイドさんの説明がフランス語訛りの英語で、理解するのが困難でしたが、ゴッホの死因については、聞き取ることができました。一般的にピストル自殺と言われているものの、そのピストルが発見されていないことから、他殺説も考えられるとのことでした。ゴッホに他殺説があることはもちろん知っていましたが、ラブー亭のガイドから説明をうけると、信憑性が深まり、真相は何なのかと、ゴッホのミステリアスな部分が一層気になるようになりました。



ゴッホが下宿していたラブー亭の裏階段を上がっていくと、ゴッホが使用していた家具付きの部屋が当時のままに保存されていました。天窓が一つの閑散とした小さな部屋で、ゴッホをもっと知りたいと思わず壁に手を触れた時、127年前とシンクロしたかのように、ゴッホの繊細な心情に触れたような気がしました。

そして、作品となったオーベル協会、村役場を見学し、ゴッホと弟のテオが並んで眠るお墓に行きました。とても仲が良い兄弟であり、天才画家と画商でもあったので、ツタが絡まり、ひまわりと麦が添えられていてお墓の前に立つと、とても感慨深いものがありました。

翌日、オルセー美術館で「オーベル協会」、「ガシエ

医師の肖像、「自画像」など多数の作品を鑑賞し、ゴッホの偉大さにひれ伏す気分になりました。

ゴッホの絵を継承した画家は未だなく、新しい時代へつないだ画家もいなく、自立し孤立した絵画の闘士としての迫力を痛感しました。

ハードスケジュールの中、フランス北西の港町オンフルールではスケッチをし、ルーブル美術館やベルサイユ宮殿でも美を満喫してまいりました。

この研修旅行では、ゴッホの繊細な心情に触れることができたのと同時に、絵画上の個性の確立を目指すべく次のステージへの指針を感じ取ることができ、私にとつて此の上ない財産となりました。

この唯一無二の時間を頂戴しましたことを心より感謝申し上げます。

ローマ賞 研修報告

山田将晴

(第101回展 ローマ賞)

34年ぶりのイタリアは、多くの観光客で溢れていた。美しい街並みは当時のままで、大理石の建造物はクリーニング技術が進み、多くが修復を終え本来の輝きを取り戻していた。5月下旬からヴェネツィア、フィレンツェ、ローマを起点的17日間の研修でした。ヴェネツィアでは5月中旬からピエンナレが開催され、街の様々な空間に造形物が展示されていた。広々とした旧造船所と森の会場は、各国パビリオンが作られ、インスタレーションを中心に、巨大造形物が並び、刺激的な展示空間でしたが、ゆったりとした時間が流れていた。

彫刻口ポット

ファイレンツェで車をチャーターして、2時間余り走ると車窓から雪山と見間違えるような、白い山肌が目飛び込んでくる、そこが世界最大の大理石産地カッラーラの石切場だ。今回は特殊な石切場に行ってみた。大理石の山塊にトンネルを掘り入口から約400m、ピアンコ・カッラーラ・ピュアと呼ばれ、叩くとキンキンと金属音が出る良く締まった良質な白い大理石が産出される。縦横16mで柱を

残し巨大地下空間の中で採掘されていた。いつか使って見たいと思う。石切場近くの彫刻工房で彫刻口ポットを見るのが出来た。自動車組立ラインの口ポット型でデータを入れると大きな面から小さな面へと、ほぼ原形どお



パオリーナ・ボルゲーゼ

ろーマのボルゲーゼ美術館では、パロック彫刻の代表的な超絶技巧の作品、ベルニーニの「アポロとダフネ」等を堪能したが、別室にさり気なく置かれたパロック後のアントニオ・カノーバの作品「パオリーナ・ボルゲーゼ」に心を奪われてしまった。(ボルゲーゼ家に嫁いだナポレオンの妹がモデル)、形の簡素化と洗練された美しさと気品、超絶技巧ののだがそれを感ぜさせない。今後の制作の手がかりとなる出会いや方向性を見つめ直す充実した、17日間約120km歩き回ったイタリア研修でした。

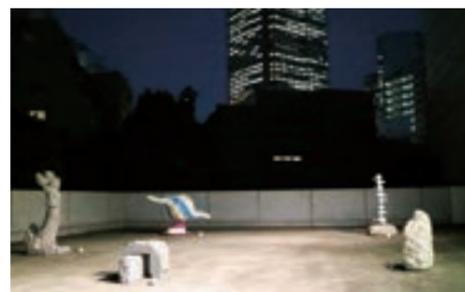
9月9日・10日・16日・17日 絵画部ギャラリートーク

4名の会員が各自のテーマと視点で、鑑賞や制作の参考となるよう会場作品を案内した

9月9日 堀尾会員 自画像の多様鑑賞、制作性としての絵画
 10日 皆川会員 抽象画を楽しもう
 16日 浅賀会員 感じるままに
 17日 寺田会員 絵を描く喜び



9月8日・15日 ナイトミュージアム 夜8時まで開場



野外彫刻ライトアップ



9月15日 ミニコンサート アクティニア

第102回二科展コラボ展示

テーマ「ネコ・イヌ・花」

ミニ個展に参加して
 絵画部 深見まさ子

今回から4部門各1名ずつのミニ個展が企画され、写真部・天内紀元、デザイン部・高橋貞二、彫刻部・島田絏一、絵画部からは私が参加した。犬、猫、花のテーマの中から「花のゆくえ」というタイトルで9点出品。

ミニ個展という事で作品構成に苦労していたところ、デザイン部の方々からてぎわのよい協力を頂き、その事がとても嬉しかった。他の部門の方々と交流できるのもコラボ展示ならではの成果と感じられ、新企画のミニ個展のコーナーが来場者と出品者を繋げる何か新しい風をひき起こすことが出来たとしたら、とても嬉しい。

2000を上回るアンケート回答をいただき、4部門の代表の抽選により、70の方へ出品コラボ作品をお贈りしました。

9月6日 10:00 オープニングセレモニー



左より
 一般社団法人二科会写真部 理事長 森井禎紹
 公益社団法人二科会 彫刻部代表・常務理事 菅原二郎
 NHK厚生文化事業団 理事長 鈴木賢一
 公益社団法人二科会 理事長 田中 良
 国立新美術館 館長 青木 保
 一般社団法人二科会デザイン部 理事長 今村昭秀



9月6日 14:00~ 授賞式 3階講堂



絵画部 会員推挙



内閣総理大臣賞 塙 珠世



文部科学大臣賞 佐々木 至

9月6日 18:00~ 懇親会 リッツカールトン東京



田中理事長挨拶



和やかに東北支部連合

9月6日 作品研究会 12:00~14:00 1・2・3階展示室 各会場の担当会員が作品の実践的な講評・研究会を行なった



9月10日 彫刻部ギャラリートーク



二科賞 稲葉朗会友



ローマ賞 橋本和明会員



彫刻の森美術館奨励賞 坂本絢佳さん

103回二科展

出品規約変更のご注意

〈会友・一般〉搬入点数が6点までとなりました。
 ・応募点数6点以内、号数組合せの規約、額装幅3cm以内など、出品規約を熟読、確認し制作してください。
 ・規約制限を超えた作品は受付できません。
 ・審査対象外となります。
 ※詳細は二科会事務所にお問い合わせ下さい。

計報

絵画部会員

勝野 浩一氏



二〇一七年九月五日逝去
 享年 87歳
 略歴
 一九六八年 第53回展特選
 一九七〇年 第55回展会友推挙
 一九八一年 第66回展会員推挙



生へのおもい S100 第95回記念展出品作

事務局だより

第102回二科展は、搬入点数こそ減少となったが、入場者数は増加傾向であった(表1・2・3)。特に外国人の有料入場者数増加が感じられたのは近年の国策が反映されての事であろうか。二科会では外国のお客様には英語版の案内パンフレットを配布し、各階受付では英語堪能スタッフが対応している。早見表やキャプション等の英語表記まで

トピックス

■トピックス
 初出品で二点入選・二科新人賞を受賞した上村咲弥さん(17・千葉)は、授賞式に高校生らしく制服で登場し、懇親会では「これからも出品を続けるかは、わかりませんが」と、正直な若者らしい挨拶。各界で早熟な才を見せて活躍する10代が話題であるが、新しい感性とスキルで、気負わずに楽しむ若い世代が新鮮に登場している。

2018

春季二科展

平成30年4月17日〜24日

東京都美術館

表2

搬入点数	102回展(昨年比)
絵画・一般	2,570点 (102減)
絵画・会友	1,077点 (8減)
彫刻・一般	49点 (11減)
彫刻・会友	33点 (4減)
合計	3,729点 (125減)

表1

入場者(昨年比)	
一般当日	5,465人 (881増)
前売り券入場	6,933人 (2,350増)
高校・大学	771人 (163増)
チラシ割引	635人 (28増)
チケットぴあ	148人 (12増)
団体割引	77人 (77増)
企画割引	88人 (132減)
新聞社優待券	2,404人 (146増)
有料入場者	16,521人 (3,525増)
無料入場者	74,979人 (2,612減)
入場者合計	91,500人 (913増)

表3

(102回コラポ展示を除く)

展示(遺作含む)	点数(昨年比)	人数(昨年比)	35才以下	
			出品者数(昨年比)	応募・在籍数(昨年比)
絵画・一般	767点 (13増)	705名 (2増)	61名 (7減)	68名 (10減)
絵画・会友	331点 (23減)	259名 (±0)	7名 (±0)	9名 (1増)
絵画・会員	158点 (1増)	158名 (1増)	-	-
彫刻・一般	44点 (4減)	43名 (5減)	11名 (5減)	11名 (8減)
彫刻・会友	33点 (4減)	33名 (3減)	4名 (1減)	4名 (2減)
彫刻・会員	58点 (1増)	49名 (1増)	-	-
展示合計	1,391点 (16減)	1,247名 (4減)	83名 (13減)	92名 (19減)

は行き届かないが、コラポ展示会場に設けられた、作品が当たる抽選箱に、外国籍らしき沢山の応募が見られたのは嬉しく思えた。抽選で漏れた方で住所記入者には記念のポストカードをプレゼントしており、住所が海外の方にも届く事を願いながらコラポスタッフがエメールアドレスを送った。
 102回展の受賞者の中から選抜された2018春季二科展の選抜出品者は皆等しく130号迄の大作を出品出来るようになった。その年の受賞者は春季展選抜出品、帝国ホテル二科サロンの出品等、色々なチャレンジチャンスが与えられている。
 今年は巡回展7会場の内、3会場は展示に半日しか費やせないハードな日程となっている。その1会場・富山↓京都展は、衆院選の投票日を直撃した台風21号の影響で交通網が麻痺。作品トラックを待つて3時間以内での展示作業。4部門の先生方等の二科パワ―で展示完了そして退館。「良い展示が出来ました」との連絡に「良かった!」の安堵感。後日「埼玉さんの作品大きすぎてエレベーターに乗らず2人の展示業者がかついで階段を上っている」との写真付きのコメントに、その日の状況を知っている私は何とも：申し訳ない。巡回展作品は130号以下」の根拠を垣間見た気がした。
 東海支部の計らいで、体調を崩され、ここ七回程、二科展に出品出来ずにおられる名古屋の梅村孝之先生と田中理事長が東海展会場と再会する感動の一面面があった。お二人のさり気ない会話からこぼれ出るお話に、二科会の紡がれて来た歴史の一頁が感じられた。
 二科会の事業は春秋の二科展と地方色豊かな巡回展から成る。二科展の裾野を広げて行くのは、人と人との信頼という絆と、日々の前向きな努力の積み重ねであると感じている。
 事務局長 埴珠世

編集後記

◆表紙は、新美術館と掲示二科展ポスター、彫刻展示室の文部科学大臣賞・佐々



カット 梅村孝之

平成二十九年十一月一日発行
 〒160-0022 公益社団法人 二科会
 東京都新宿区新宿4-13-15
 レイフラット新宿501号室
 電話 03-3354-6646
 FAX 03-3354-4768

◆受賞作品を紹介してきた作品寸評は、受賞作品目録の充実もあり、今号は1、3階の研究会を担当した会員各氏に、範囲を区切り、点数をPICKUPして寸評頂いた。会友から一般出品者作品まで、どのような作品を選び評されるのか、新しい試みとした。
 ◆国立新美術館は今年、開館10周年を迎えた。同時に開催会場を移した新生二科展も10年を経た。上野・都美術館の会場を知らない出品者も増え、U35展示室の新鮮な作品が目まれ、若い世代の受賞、推挙などの活躍の機会も多くなっている。紙面でも新しい風をお伝えしていきたい。(N)

編集委員
 委員長(絵) 野村 みそら
 委員(絵) 田川 絵理
 " " " 尾崎 ゆき子
 " (彫) 谷口 貞久
 " 廣瀬 友彦
 " 宮澤 光造